

ブレークスルーをイノベーションにつなぐ人材を 週1のアントレプレナーシップ講座で育てる

理系の学生にいきなり剛速球は無理 緩い球から入って文系大学院レベルに

この研究科ではすべての学生が文系分野であるアントレプレナーシップ(企業家精神)の科目を履修する。指導陣の中心が、経営学が専門の忽那憲治教授とベンチャー設立の実績を持つ山本一彦教授だ。

忽那 学内で研究科創設の議論をしている時、理系の学生こそ企業家精神を学ぶべきだと提案して認められ、山本さんに声をかけました。

山本 アメリカでは理系と文系の最高の知識を併せ持つビジネスエリートがベンチャーキ

えました。「経営を学ぶ理系学生は君たちだけ。就職で差別化できる」と話したり、学生に人気のある企業を実例に事業戦略を教えたり。そこを入り口に、2年間で文系大学院レベルの基礎知識は身につけてもらいます。

忽那 卒業生は就職活動で役立ったと言っていました。真の意義を感じるのはいくらだと思えます。企業に勤める技術系社員が、40代になってから事業化のために経営を学ぶ意味を知り、大学院に来ることも多い。20代前半でそれに気づき、学べるのですから。

イノベーションを起こす方法はこれしかない

創設から2年。2018年からスタートした後期課程では、より斬新な試みに取り組んでいる。

山本 後期課程の学生には具体的なシーズの事業化プランを書かせ、厳しく審査します。企業の意向で派遣された学生が多いですね。

忽那 企業にしてみれば、いくら研究成果を上げて、それが事業につながらなければ意味がない。だからこそ、事業化プランまで求める私たちへの期待は大きいのだと感じます。

山本 この研究科は教員同士も文理の垣根がなく、同じ釜の飯を食う同僚として自由に議論ができる。日本の大学でイノベーションを起こす方法はこれしかない——そんな手ごたえを感じています。

山本 一彦 教授

YAMAMOTO Kazuhiko

兵庫県出身。1988年一橋大学商学部経営学科卒業。住友電工、野村総研などを経て、創業期専門のベンチャーキャピタルを創業し、ベンチャー企業の投資育成などに取り組み。2016年より現職。リアルなビジネスと戦略的企業家精神を学生に伝えたい。

アントレプレナーに
必須の4分野

技術戦略
Technology

知財戦略
IP rights

事業戦略
Strategy

財務戦略
Finance

事業創造に必要な技術戦略、知財戦略、事業戦略、財務戦略を理論と実践の両面から学んで成功率向上のフレームワークを習得し、強い情熱をもった人材を育てる。

忽那 憲治 教授

KUTSUNA Kenji

愛媛県出身。1997年大阪市立大学大学院経営学研究科修了。博士(商学)。大阪市立大学経済研究所助教授などを経て2016年より現職。アントレプレナー・ファイナンスに関する研究などが専門。高校・大学でラグビー。



左から、尾崎弘之教授、坂井貴行教授、岩堀敏之特命准教授、幸田徹特命教授、中町昭人特命教授、島並良教授。

ャピタリストとしてブレークスルーとイノベーションをつないでいます。日本でもそんな人材を育てたい。過去に大学発ベンチャーに関わり、大学の先生との距離感を埋められずに苦勞した経験から、大学に入って同僚として一緒に仕事してみたいとの思いもあり、転身を決めました。

忽那 前期課程の学生は、毎週月曜、全員が揃い、朝から夕方まで私たちの授業を受けます。学生はそもそも経営に興味がないし、私も理系の学生に教えた経験はないから、最初は戸惑いましたね。

山本 いきなり剛速球を投げてもキャッチできない(笑)。最初は緩い球を投げることを覚

